

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 21日から25日にかけては、前線が西日本から東日本付近にのびて、ほとんど停滞する。前線上を低気圧が進む可能性がある。
- 21日から23日にかけては、気圧の谷が北海道付近を通過する。

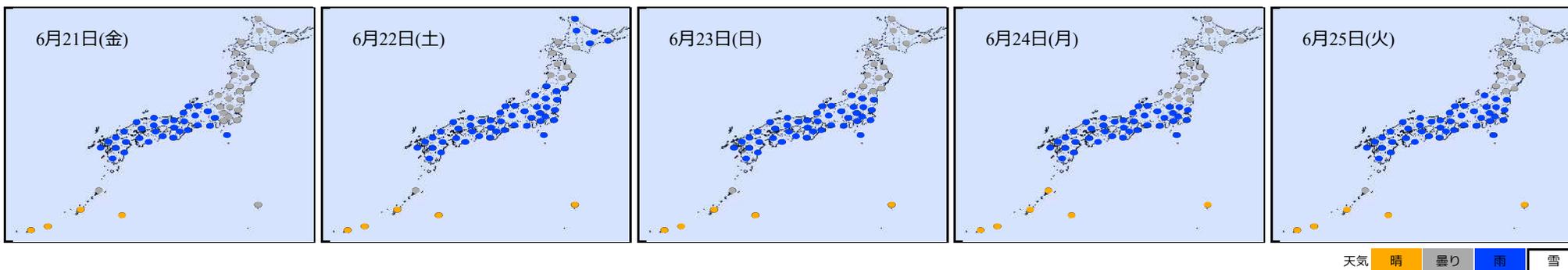
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 21日からは、前線や暖かく湿った空気の影響で、西日本を中心に大雨となるおそれがある。暖かく湿った空気の流れ込みの程度等によっては、警報級の大雨となるおそれがある。
- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

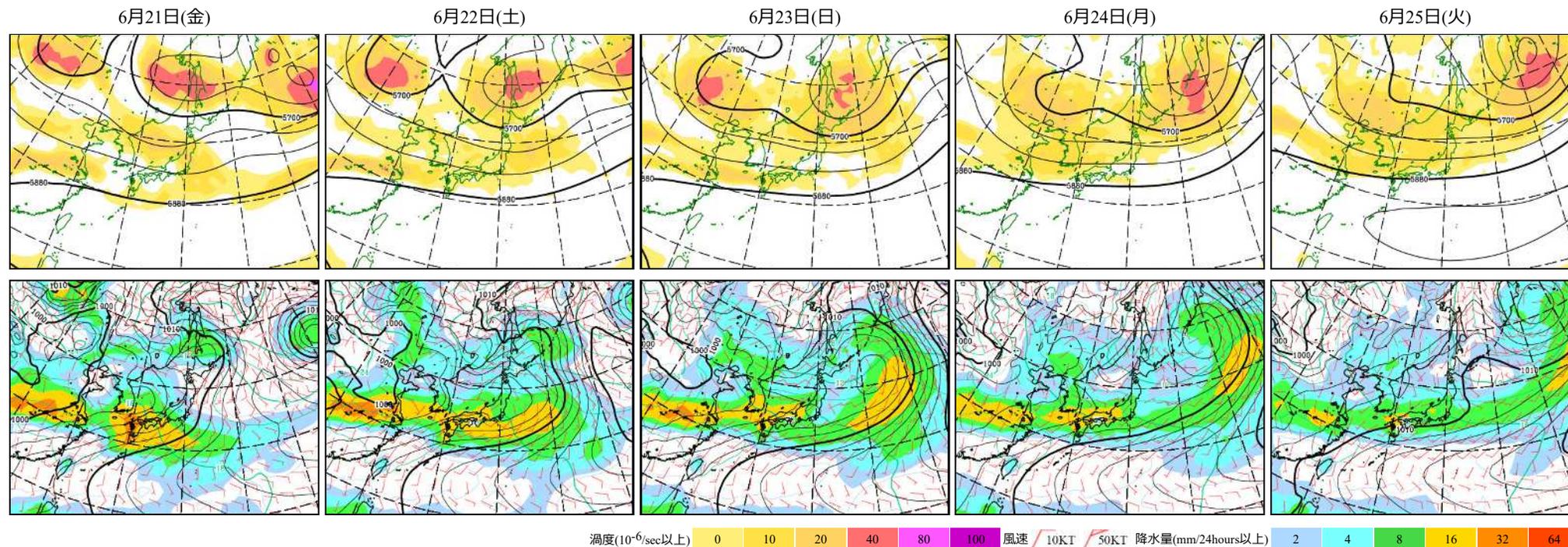
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

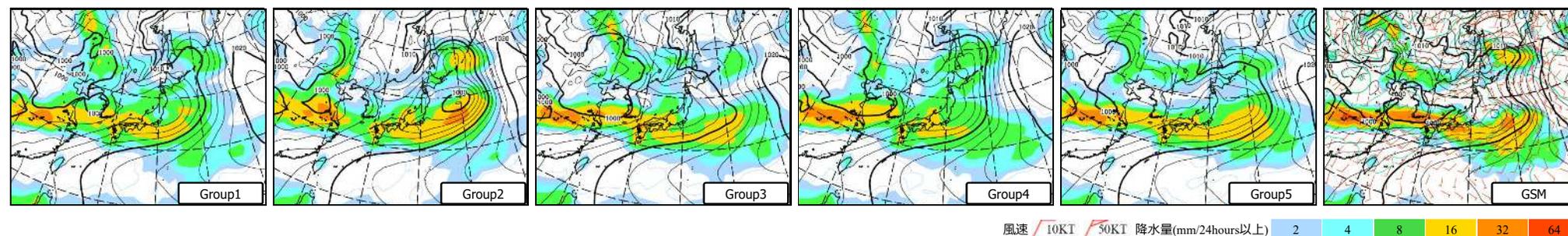


- 北日本は、雲が広がりやすく、雨の降る所がある。
- 東日本と西日本は、曇りや雨の日が続く。
- 沖縄・奄美は、晴れる日が多いが、雲が広がりやすい所もある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆6月22日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、22日頃に本州付近を進むトラフは浅めとなり、本州付近の通過が早まった。その後、日本付近は西南西の流れの場が続き、日本付近の高度場は昨日予想よりも高めとなった。21日頃から前線は西日本から東日本へと伸びて、ほとんど停滞する予想となっている。
- 22日から23日頃に北日本付近を通過するトラフは浅くなったモデルが多く、北海道付近に予想される気圧の谷は弱めとなった。
- 21日以降、前線は西日本から東日本にのびるが、前線上の低気圧の予想についてはモデル間で差があり、アンサンブルメンバー間のばらつきも大きく、不確実性がある。
- 期間の後半は、5700mの特定高度線のばらつきが大きくなり、北日本付近に予想される低気圧やオホーツク海高気圧の予想にも不確実性がある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に作成する。